

本研究戦略は、10年後に目指すべき農業の姿を見通し、農業・農村の所得倍増、食料自給力の確保に向けて必要な研究として、以下の3つの技術を柱として、実施すべき研究の方向性を取りまとめたもの。

- ① 多収化や強みのある農産物生産のための「**収益力向上技術**」
- ② 省力で取り組み易く、魅力のある農村の実現につながる「**生産流通システム革新技術**」
- ③ 温暖化の進行や異常気象の影響を軽減し力強い産地をつくる「**産地強靱化技術**」

【10年後に目指すべき姿】

- 大規模水田輪作体系、園芸作物複合型水田輪作体系の構築など、収益性の高い土地利用型農業経営の確立
- 肥料、飼料など農業資材のコスト低減、安定確保
- 消費者・実需者のニーズに応じた強みのある農畜産物づくりの促進

- 革新的技術やロボット技術、ICT等の活用による省力・大規模農業の実現
- 女性・高齢者や新規就農者など誰もが取り組み易い農業の実現
- 魅力と強みのある農村の実現
- 少ない人員で高度な飼養管理が可能な大規模経営の確立等による畜産・酪農の競争力強化
- 食産業等の需要に応える流通の高度化

- 中長期的な温暖化予測を基に、将来想定される被害を回避・軽減する対策の計画的実施
- 豪雨や極端な高低温等の異常気象による被害を最小限に抑えられる産地の形成

【必要な技術】
(新規課題)

収益力向上技術

- 水田輪作における多収阻害要因の把握と収益性改善技術
- 水田における園芸作物等との複合経営、新作型等の栽培体系
- 地力の簡易・迅速診断技術
- 低コスト多収性飼料用米品種、栽培体系
- 高栄養価の国産飼料作物や牧草等の生産・利用技術
- 花きの日持ち性等の向上技術

生産流通システム革新技術

- 畦畔の雑草管理等の機械化を容易にする基盤整備手法及び機械化省力体系
- 果樹の管理作業の単純化、軽労化に向けた統一樹形及び自動化機械
- 中山間地域における農産物の選択自由度拡大を支援する低コストな基盤整備技術
- ICTを活用した畜産の精密飼養管理技術
- 家畜の受胎率向上、悪臭低減技術
- 園芸作物や飼料の調製、保存技術

産地強靱化技術

- 中長期的な温暖化予測に基づく生育不良等のメカニズム解明及び被害回避・軽減技術
- 極端な高低温、病害虫の発生に対する被害回避・軽減技術
- 異常気象に備え、豪雨に対するための生産基盤の改良等による排水・保水機能強化手法